

～第20回定例総会に出席して～

職員の思いを吸い上げた総会議案書ができあがり、そして迎えた総会当日。冒頭の小島代表の挨拶では近々行われる介護保険改正に伴い、利用者さんやえんのような小～中規模の事業所が増々厳しい環境に置かれる可能性があるというお話がありました。えんのような小規模の事業所でも知恵を絞り工夫している所は、大規模な施設よりも利用者さんに合わせた介護を提供していると思います。それに事業所に戻れば、何でも相談に乗ってくれるベテラン職員がいて、とっても働きやすい職場です。

今年1月に特養老人ホームからえんの訪問介護部門に転職し、不安だらけの日々でしたが、周りの方々のサポートのおかげで少しずつですが、落ち着いてケアに入れるようになってきました。私が働いていた特養では1階から3階までで利用者さんが100人ほどおり、少ない職員でみなくてはいけないので、利用者さんに寄り添った介護がなかなかできないのが現状でした。えんに来て印象的だったのは職員同士がとても密にコミュニケーションをとって、利用者さんの要望にも柔軟に対応しているということです。その分ヘルパーの予定も日々めまぐるしく変わるし、利用者さんの心身の変化にも気を遣います。

「えん」という名前には「縁」「円」「苑」「園」といったいろんな意味が込められているそうです。利用者さんや職員を大切にしている職場が残って欲しいし、それを支える一員としてこれからも日々コツコツがんばりたいです。

(ケアサポートえん／小野実穂)

えんの歳月を詰め込んだ本を出しました！

7月、『あなたはどこで死にたいですか？～認知症でも自分らしく生きられる社会へ～』（岩波書店 定価：税込 2,310円）といういささか刺激的なタイトルの書籍を出しました。超高齢化が進み認知症になる人が増加する中、いざ介護サービスを受けるときまで、使い勝手が悪くなった介護保険の実情を知らない人がほとんどです。「安心して最期を迎えるために必要な制度とはどのようなものか」をご一緒に考えたいと著しました。そして、暮らしネット・えんの利用者さん、スタッフのおかげで書き上げられた本です。多くの方に読んでいただければ幸いです。

